

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2674000316		
法人名	有限会社 アールエムシー		
事業所名	洛和グループホーム千代原口 (1F)		
所在地	京都市西京区御陵谷町29-2		
自己評価作成日	2013年10月1日	評価結果市町村受理日	2014年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2674000316-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1 「ひと・まち交流館京都」1F
訪問調査日	2013年10月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

定期的にボランティアの方がきていただき、ちぎり絵を一緒にしたり、地域の小学校の運動会、夏祭り、地藏盆等に利用者様と参加し、地域との関わりを大切にしている。また、ご家族様のご協力もあり、ホームの夏祭りでフラダンスのボランティアをしていただき、様々な行事等も積極的に参加していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桂坂の住宅地の一角の静かな環境の中にある事業所です。法人の全般的な理念を基に事業所独自の理念を職員皆で作成し、さらにその理念を実現するために、各ユニットごとに具体的な実践目標を立て、職員間で共有しながら実践に努めています。運営推進会議には警察署や消防署職員がメンバーに入り、玄関には、「自主防災管理体制の充実」の消防署長表彰状、「京都府地域の安心・安全サポート事業所登録書」、屋外に「こども110番」が挙げられ地域との連携への努力が窺えます。地域の運動会ははじめ、催しへの参加。定期的な複数のボランティアグループの来訪もあり地域とのつながりも確保されています。一方ケアプランのアセスメントにセンター方式を活用し、かわる職員全員が「私の姿と気持ちシート」を作成し情報を共有するとともに、多角的に利用者を見ることで、より本人の思いに沿ったプランの作成に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに理念を掲示しており、出勤時に各職員は理念の唱和を行い、日頃から意識するようにしている。	法人の理念を基に事業所理念を職員総意で作成し、その理念の実現に向け、各ユニット毎に目標や具体的な実践計画を定めている。この計画が実践につながっているかは1年毎に評価し、振り返る機会としている。	事業所として力を入れている点は、家族や近隣に伝える工夫をするとともに、グループホームケアの啓発を視野に情報発信されてはいいか
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の小学校の運動会、夏祭り、地蔵盆等に参加し、地域とのつながりを大事にしている。	ご近所とは散歩時の挨拶や、町内会に入り、地域の運動会や夏祭り、地蔵盆などに参加している。会場は利用者に優先席が用意されるなど、配慮してもらっている。事業所が行なう行事は、町内の掲示板にポスター掲示をしてもらい、近隣へポスティングし、地域の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、認知症サポーター講座を地域の方、対象に行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、利用者の家族様、消防署、警察の方等が参加していただき、報告、意見の交換等を行なっている。	会議メンバーは利用者家族・民生委員・地域包括支援センター、他に西京消防署や松尾交番署員もメンバーになっている。災害時対応やおれおれ詐欺の事例とアドバイスを聞き情報交換をしている。ボランティアで訪問されているフラダンスグループは会議メンバーの提案で始まり、催しとして定着している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上記の通り、2ヶ月に1回、地域運営推進会議を開き、その際、意見の交換、報告等を行なっている。	運営推進会議議事録を区の担当者に提出に行き入退所状況等報告している。月1回西京区の「高齢者サービス関係機関介護保険サービス事業者連絡調整会議」に管理者が参加し、情報交換や収集を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前、不審者が出現した事もあり、玄関を施錠していたが、最近ではそういった事もなく、現在は夜間以外、玄関は施錠していない。	法人の必修研修には各ユニットから代表が受講し、伝達研修を行なっている。特に言葉の拘束防止に力を入れており、職員同士注意し合ったり職員会議で確認、思いを共有している。外に出て行く利用者は玄関センサーチャイムで確認し、無理に止めることなく一緒に散歩に出るなど、気持ちを重視した対応を行なっている。夜間起床し転倒の心配ある事例があり、家族の要望も強く離床センサーを設置しているが、拘束に準じ法人の方針に反するものであり対応を模索している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部、外部の研修等に参加し学ぶ機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に学習している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	できるだけ面会時に実際にお会いし、書類と照らし合わせ、できるだけ分かり易く説明できるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見交換、家族様へのアンケート実施等行なっている。また、玄関先に意見箱を設置し、いつでも意見を表せる機会を設けている。	法人のグループホーム共通のアンケートを年2回行っており、8割ほどの回答を得ている。意見の臭気は、消臭剤の活用やトイレ掃除時間帯の調整。洗濯の間違い、誤薬等の意見等は職員会議で話し合い改善に努めている。面会は週1回から2回と多い家族もあるが「ホーム便り」や、利用者の「健康観察記録」、写真等を月1回送付し生活の様子を知らせ、意見を言いやすい環境を整えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に対するアンケートを行なっている。	法人共通のアンケートを年2回、管理者による職員面談も年2回行ない日頃の個人の思いや意見を聴取している。業務を工夫して月1回午後、1時間半程度、職員会議を各フロア毎、また合同で行ない、会議には管理者が参加し意見を聞き、調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に人事考課等行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修参加の参加に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームへ研修、見学等の機会があり、交流を図っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人様に聞き取りを行い、入所後も本人様のご要望、思いに寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様も同じく入所前に聞き取りを行い、入所後もご要望、思いに寄り添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、色々な選択肢を提供、説明等行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様の家にお邪魔しているという感覚を忘れず、常に尊厳の気持ちを持ち接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、必要時、協力を仰ぎ、利用者様を共に支えていく関係を築くよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から馴染みである人達や、場所に定期的に行って喜んでいただいている。	利用者が話した内容や希望を聞いた上で年1回個別外出が出来るように計画している。「錦」の言葉が出る方とは錦市場に行ったりご自身の希望が伝えられない方については甘いもの好きという日頃の観察からスイーツバイキングに出かけ喜んで表情が見られるということがあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	一緒にちぎり絵を作ったり、協力してお手伝 い等をしていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お電話等でご相談があった時は、分かる範 囲で相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	入居時に利用者様や家族様から情報収集 し、ニーズを把握しアセスメントしている。	センター方式、24時間シートを使用し、ご本人に直 接話を聞いている。意思をさせない状態の方につ いては家族に協力してもらい、その方にとって重 要なキーワードを聞いて働きかけを行なっており 日々の生活の中で判明したことや新たな情報はケ アプラン作成時・更新の際に追加して思いに沿っ たサービスが出来るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入居時に利用者様や家族様から生活歴や 生活環境等の情報収集し、今までの生活を 少しでも尊重できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	定期的にかンファレンスを行い、利用者様の 状態に変化があればその都度話し合う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	上記の通りカンファレンスを定期的に行い、 利用者様の状態について話し合っている。 また、家族様にはその都度ご要望をお聞き している。	センター方式を使用し、1人の利用者に対して担 当職員全員が「私の姿と気持ち」シートを作成して 様々な角度から本人の思いを汲み取り、本人の希 望や思いをより正確に取り入れられるような工夫 をしている。職員会議の際に計画作成担当者が作 成した原案を基に検討しプランを作成している。介 護計画は3ヶ月毎にモニタリングを行い、3ヶ月、 6ヶ月、1年で原則見直ししている。支援記録は介護 計画に連動させ作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録にはもちろん、何か特記事 項があれば申し送りノートに記載したり、口 頭で伝達するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院を母体とし、訪問看護、居宅介護支援事業所等と連携し、事業所の多機能を活かした支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの行事の際、ボランティアの方をお呼びし、お茶会を開いていただいたり、利用者様によるピアノ演奏会を企画し、いい関係性が築けるように努めている。		
		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様のご希望に沿った医療を受けられるように支援している。	元のかかりつけ医受診継続、協力医療機関への変更のどちらも可能であることは、契約時説明している。受診は家族同行を基本としているが、必要とされる時は職員が同行している。月2回の内科医往診があり、訪問看護・歯科衛生士による口腔ケアは週1回、歯科医往診は月1回あり、状態に応じ受診している。緊急時は同法人の医療機関に搬送している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様に何か特変があれば、すぐに訪問看護師、往診医の方に連絡、相談をし、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、病院のNs、Drに密に連絡を取り合い、今後について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	Ns、Drとの連携をとり、家族様には十分説明をしていく。	重度化・看取りについて指針が作成されている。契約時に本人・家族等に説明、終末期の意向を確認している。看取り経験はないが職員は法人で行なわれる研修に参加し様々な状況を想定し、ロールプレイを行なっている。医師の往診や訪問看護との連携体制等は整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防署をお呼びしての消防訓練を行っており、万一に備えている。	年2回消防署立会いのもと夜間想定も含め消防訓練を行なっている。近隣へは事前にお知らせし、利用者も可能な方は参加している。非常袋を各フロアで用意し備蓄も利用者の3日分確保している。訓練以外にも2か月に1回消火器の使用訓練をし非常時に備えている。なお、運営推進会議で、メンバーより地域の避難場所として利用可能かと質問があり、人道的立場から高齢者等は受け入れざるを得ないと話しているが、協定まで至っていない。	自然災害への対応について、検討を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を傷つけないような言葉かけをするように心がけている。	なじみの関係を築くことを大切にしているが常に尊厳を持った気持ちを忘れず、馴れ馴れしい言葉づかいにならないように気を付けている。居室扉は内側から鍵を掛けることが出来、夜間は鍵を掛けて休む方もいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の衣服の選択、食事の選択等、できるだけ自己決定をしていただけるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員のペースではなく、ゆっくりでも利用者様のペースを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ利用者様に毎日の衣服の選択、髪型等、みだしなみをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と一緒にメニューを考えながら、料理を手伝っていただいている。	利用者に意見を聞きながら冷蔵庫にあるものを確認して毎食の献立を決めている。食材は生協より配達されることになっているが足りないものがある時は近くの店へ利用者と一緒に買い物に出かけている。誕生日などは主役の好きな献立をリクエストし、祝っている。食事時はテレビを消してなじみの曲などを流し職員と共に楽しく食事が出来るように配慮している。外食は月1回の行事としてユニット単位又は合同で出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量が足りておらず、必要な方には、水分摂取チェック表を活用し把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにて口腔ケアを促している。また、必要な方には、定期的に訪問歯科の方に治療にきていただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行なっている。	個別に排泄パターン表をつけ、1人ひとりの排泄間隔を確認したうえで、それぞれの方に合ったトイレ誘導をし、リハビリパンツ・パット・布パンツへの改善など、自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ日頃から乳製品を提供し、自然排便できるように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できるだけ利用者様の希望に沿ったタイミングで入っていただけるよう心がけている。	少し大きめの家庭用浴室が各フロアにあり、車イスの方には2人介助で対応している。入浴時には各人お気に入りのシャンプー・石鹸類を使用することが出来、ゆず湯やしょうぶ湯など季節の入浴も楽しむことが出来ている。入浴時間にゆとりが持てると、話しも出てくるので大事にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できるだけ、今までの生活習慣通りに休息していただき、居室も気持ちよく過ごしていただけるような環境作りを心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬チェック表というものを作成しており、誰でも閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様ごとに役割を作り、体調不良等ではない限り、できるだけ取り組んでいただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候、タイミングが合えば、少しの距離でもできるだけ、外に出るようにしている。	事業所のある付近は坂が多く、日常的に事業所周辺の散歩に出かけられる方は限られる。歩行が困難な方、車イス利用の方は玄関先で日光浴を楽しんだり、土いじりをしたりしている。2階では非常口のベランダで、外気に触れる機会を設けている。従って、日常的にはドライブがてら買い物に行く機会を利用し屋外に出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は小銭程度は所持しておられる。持っておられない利用者様でも外出時、希望があれば、購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、お電話やお手紙をしていたいでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ今までの生活習慣に違和感が無いような居室環境を考えている。	季節の花を飾るなどその時々季節が感じられる雰囲気づくりをしている。玄関にはちぎり絵や利用者の作品を飾るなど華やかな雰囲気である。リビングは、1・2階ともキッチンでの作業がよく見え調理の際は料理の良い匂いがして、利用者は家庭的な雰囲気の中でくつろぎながら過ごしている。照明は白色蛍光灯が使われている。1階は洋風、2階は和風で整えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	静かな場所がお好きな利用者様や、独りになられるのがお好きな利用者様もおられるので、タイミング等を見て心地よく過ごしていただくように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人様、ご家族様に聞き取りをし、できるだけ馴染みのものを使っていたりするように働きかえている。	全て和室となっており日当たり良く暖かい雰囲気である。各居室それぞれに空調機、キッチン・トイレがついており簡単な料理、温めは出来る。仏壇、遺影、鏡台、手芸道具、電子ピアノ等、馴染みの調度品、壁には往時が窺える写真が掛けられるなど、個性があり、生活感のある環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様ができる事を職員がやってしまうず、できるだけ自立でしていただけるよう支援する。		